

異常高温継続中

水稻の高温対策を実施しましょう！

令和7年8月26日

本庄農林振興センター

埼玉県では梅雨明け以降、気温は高く、降水量は少ない状況となっています。
水稻の高温障害を回避するため、水管理を徹底しましょう。

※管内では高温少雨のため、パイプラインの農業用水が出にくい状況にあります。

以下のポイントを踏まえて行いましょう。

【水管理のポイント】

○出穂前後1週間は湛水状態を保ちましょう。

用水が不足する場合は、数日に1回かん水し、土壌が濡れた状態を維持するよう心がけましょう。

それ以降は間断かん水を行い根の活力維持に努めましょう。

○また、かん水は夕方以降に入水を行うことで地温を下げる事ができます。

○かけ流しは用水を大量に使用することから水不足を招き、かえって高温障害を助長する恐れがあるので避けましょう。

○かん水時は、ほ場全体に水が行きわたったら、速やかに水口を閉めましょう

○用水を有効活用するため、畦畔や水尻の再点検を行い、ネズミ穴や畦畔の崩れ等を補修して漏水を防ぎましょう。また、止水時に用水路の水漏れ等の補修を行いましょう。

○早期落水は避けましょう。